

[ 2010年度 第1期 ]  
**K.G.梅田ゼミ受講申込書 FAX専用**

3月23日より受付開始

[ 申込FAX送信先 ] **0798-54-6904** (24時間受付) 関西学院大学 生涯学習課

ふりがな				生 年 月 日	性 別
氏 名				19 年 月 日	・男・女
自 宅	〒 -				
E-mail	(携帯不可) @				
電 話	-	-	FAX	-	-
携帯電話	-				
関西学院 同窓の方	卒業年次(昭和・平成)	年	学部・大学院	学科卒(旧姓:	)
<b>お 申 込 講 座</b>					
該当する受講料欄にチェック☑を入れてください。					
コース選択	講 座 名			一般	同窓割引
<input type="checkbox"/>	A 超高齢化時代を迎えて —ライフサイクルを見直す— (全6回)			<input type="checkbox"/> 13,800円	<input type="checkbox"/> 12,000円
<input type="checkbox"/>	B 日本の喫茶文化 —その魅力と楽しみ方— (全10回)			<input type="checkbox"/> 23,000円	<input type="checkbox"/> 20,000円
<input type="checkbox"/>	C 平家物語の平清盛 —その生涯をたどる— (全10回)			<input type="checkbox"/> 23,000円	<input type="checkbox"/> 20,000円
<input type="checkbox"/>	D 現代社会における司法の役割 —裁判員制度の行方、犯罪と刑罰— (全10回)			<input type="checkbox"/> 23,000円	<input type="checkbox"/> 20,000円
<input type="checkbox"/>	E 新約聖書を読む —「教師」イエスの探究— (全6回)			<input type="checkbox"/> 13,800円	<input type="checkbox"/> 12,000円
備 考					

■個人情報の取り扱いについて

関西学院大学では、本学が提供する公開講座の申込時に、皆さまの個人情報の提供をお願いする事があります。また、ご提供頂いた個人情報は、公開講座運営のため、および公開講座にお申し込み頂いた皆さまに対し、本学の提供する教育機会についてのお知らせをさせて頂くなど、社会に開かれた大学としての責務を果たしていくために限り、利用させていただきます。

本学は、ご提供頂いた個人情報を取扱う場合は、個人情報に関する法令を遵守し、すべての教職員が、機密性を保護する取り組みを実施することにより、プライバシーを尊重し、本学に対する期待と信用に応えてまいりたいと考えています。

**お申込方法**

受講申込書(専用紙)をご使用いただき、関西学院大学教務部生涯学習課にFAX送信してください。(FAX.0798-54-6904)

▶ **受講申込上の注意**

- 申し込み期間3月23日から先着順で受け付けます。(開講後も申し込みを受け付けますが受講料は同一です)受講料振込用紙と講座に関するご案内は4月以降にお送りします。
- 定員をオーバーした場合は募集を締め切らせていただきます。募集締め切りはホームページに掲載いたしますので申し込み時に確認してください。
- 開講1週間前に応募者が10名以下の場合是不開講とします。(すでにお振込の場合は受講料は返金させていただきます。)
- 申し込みはFAXでの申込のみとなります。パンフレットの申込用紙あるいはホームページに掲載されている申込用紙をプリントアウトしてお使いください。
- 受講料に教材費は含まれます。ただし、フィールドワーク等で発生する費用は受講料に含まれません。
- 講座運営上支障のある場合はご参加をお断りする場合があります。

▶ **キャンセルについて**

- キャンセルは、開講日までに生涯学習課にご連絡ください。開講日以降のキャンセルによる返金はできませんので、ご了承ください。
- 開講日以前のキャンセルの場合、キャンセル料を差し引いた金額を返金いたします。

キャンセル料	講座開始2週間前まで……………無料
	講座開始1週間前まで……………1,000円
	講座開始前日まで……………2,000円

**会 場**

**関西学院大学 大阪梅田キャンパス**  
 阪急梅田駅茶屋町口下車北へ徒歩5分  
 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー14階  
 TEL.06-6485-5611  
[http://www.kwansei.ac.jp/kg\\_hub/access/](http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access/)

**お問合せ**

関西学院大学教務部生涯学習課  
 〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

**TEL.0798-54-6892 FAX.0798-54-6904**

受付:FAX 24時間  
 問い合わせ:電話 平日 9:00~16:00

関西学院大学教務部ホームページ [http://www.kwansei.ac.jp/a\\_affairs/](http://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/)

この講座は関西学院大学と関西学院同窓会の共同プログラムです。

# K.G.梅田ゼミ

2010年度4月開設

**受 講 生  
募 集 中**

関西学院大学大阪梅田キャンパスで社会人のための  
 少人数ゼミを開講。どなたでも参加いただけます。

**特 色**

1. 少人数(原則30名)による講座
2. 講座のレベルはアカデミックな大学教養レベルとします。
3. 講座のスタイルは、グループセッション、フィールドワーク、事例発表などをとり入れます。

**CONTENTS** [ 定員 各コース30名 ]

- Aコース 超高齢化時代を迎えて —ライフサイクルを見直す—  
 乾原 正 4月13日~5月25日 [全6回]
- Bコース 日本の喫茶文化 —その魅力と楽しみ方—  
 寺本益英 4月16日~7月 2日 [全10回]
- Cコース 平家物語の平清盛 —その生涯をたどる—  
 武久 堅 6月 2日~8月 4日 [全10回]
- Dコース 現代社会における司法の役割  
 —裁判員制度の行方、犯罪と刑罰—  
 前野育三 6月25日~9月10日 [全10回]
- Eコース 新約聖書を読む —「教師」イエスの探究—  
 山内一郎 8月12日~9月30日 [全6回]

キリトリ線

# K.G.梅田ゼミ — 都心キャンパスでの学びと出会い。

2010年4月より関西学院大学の新たな取り組みとして、少人数から成る「KG梅田ゼミ」を開講いたします。社会に開かれた都心キャンパスである大阪梅田キャンパスにおいて、関西学院大学の知的資産を皆様へ提供し、人々が学び、出会う新しい出発の場となることを願っています。本講座が、皆様のさまざまなライフステージにおける自己実現へのきっかけとなると共に、本学のスクールモットーである“Mastery for Service”を体現する機会となることを心から期待しています。

「KG梅田ゼミ」は関西学院大学と関西学院大学同窓会が協力して開設いたします。同窓生だけでなく、どなたでも参加いただけます。皆様の参加をお待ちしております。

関西学院大学学長 杉原 左右一



## A COURSE 超高齢化時代を迎えて — ライフサイクルを見直す —

毎回火曜日 ●時間/13:30~15:00 ●受講料/13,800円(同窓生12,000円)

自分史を書くつもりで自分の歩みを顧み、残された人生を豊かに充実したものとし、わが人生の統合を図ることができるよう、ライフサイクルについて考える。

担当講師：乾原 正  
関西学院大学名誉教授・元文学部教授



### ■スケジュール

第1回	4/13 (火)	人生のスタート—生物学的「ヒト」から社会的「人」へ— 人間誕生時の生物学的特異性が、その後の変化に富んだ社会的環境の中で人間を大きく飛躍させる。	第4回	5/11 (火)	成人としての課題—家族を作る— 人間は家庭という場を基盤として成長していくものである。家族とは何か、配偶者の選択にはじまる家族の形成と発達を考える。
第2回	4/20 (火)	「三つ子の魂」と三歳児神話—人の中で育つ— ヒトは人と出会い、人によるさまざまな働きかけを受けることによって、人として社会に生きていくために必要な行動を身につけていくことができる。	第5回	5/18 (火)	退職後の生活を豊かに—加齢と能力の減退— 定年退職—誰もがいつかは何らかのかたちで迎える事態である。人生の最盛期が過ぎ生活面・精神面での変動をどのように受容するか。
第3回	4/27 (火)	アイデンティティの確立—おとなになることの難しさ— 社会人として主体的に生きようとする青年期には、「自分とは何であるか」という問題を深く問い直してみる必要がある。	第6回	5/25 (火)	人生の統合を図る—いかに老いるか— 人の一生はその最盛期で終わるわけではない。そのあとの高齢期をどう迎えるか。高齢期は過去の経験を再認識し、自己の統合を図る大切な段階である。

## B COURSE 日本の喫茶文化 — その魅力と楽しみ方 —

毎回金曜日 ●時間/13:30~15:00 ●受講料/23,000円(同窓生20,000円)

中国における人類と茶の出会いから出発し、わが国に喫茶が普及してゆく過程をたどり、茶がそのときどきでどのような意味を持って人々に受け入れられていったかを検証します。

コーディネーター・担当講師：寺本益英  
関西学院大学経済学部教授



担当講師 小笠原秀邦〔(財)小笠原流煎茶道家元嗣〕、上林春松〔上林春松本店会長〕、杉本則雄〔元京都府立茶業研究所長〕、湯浅薫〔茶文化研究者〕

### ■スケジュール

\*フィールドワーク・体験型プログラムの詳しい内容は後日、講座の中でお知らせします。

第1回	4/16 (金)	喫茶文化とその周辺—お茶研究の魅力— 寺本益英が担当。連続と継承されてきた日本茶の歴史を見つめなおす。飲料としてではなく、その文化的・精神的側面を重視する。	第6回	5/28 (金)	煎茶文化ともてなしの心(体験型プログラム) 小笠原秀邦氏の担当。煎茶道の基本的な点前を体験するとともに、種々のマナーについても理解を深める。※現地集合、13:00~17:00の間で1時間程度。グループに分けますが、時間は指定できません。別途、交通費とお茶・お菓子代等3,000円がかかります。(現地でお支払いください)場所は藤田美術館(大阪市都島区)あるいは、小笠原流瑞峰庵(芦屋市)の予定。
第2回	4/23 (金)	中国における喫茶のはじまりと日本への伝来 湯浅薫氏による講座。古代中国における人類と茶の出会いから出発して、日本にどのように伝来したかを学ぶ。	第7回	6/4 (金)	茶園の1年—お茶の栽培技術を学ぶ— 杉本則雄氏の担当。1年間の茶の生長周期を知り、その周期に沿った管理について学ぶ。
第3回	5/7 (金)	鎌倉時代~安土・桃山時代の展開 寺本益英が担当。鎌倉仏教と茶、闘茶の流行、侘び茶の成立と展開が主要テーマ。	第8回	6/11 (金)	製茶技術の発展 杉本則雄氏の担当。平安時代における伝来以来、茶の加工方法がどのように発展してきたかを学ぶ。
第4回	5/14 (金)	宇治茶と上林家(フィールドワーク) 上林春松氏が担当。日本を代表する文化である茶の湯文化を支えた宇治・上林家(上林記念館)を訪ねる。抹茶工場も見学予定。※現地集合13:00~17:00 別途、交通費と上林記念館入館料200円が必要です。(現地でお支払いください)	第9回	6/25 (金)	本物のお茶を味わう(体験型プログラム・西宮上ヶ原キャンパス) 湯浅薫氏の担当。様々な種類の中国茶・日本茶について、外見の特徴、淹れたときの水色や味を知る。おいしく淹れるためのコツを学ぶ。※場所は上ヶ原キャンパス集合13:00~17:00。別途、交通費とお茶・お菓子代1,000円が必要です。(現地でお支払いください)
第5回	5/21 (金)	煎茶道の世界へ 小笠原秀邦氏による講座。18世紀後半に誕生した煎茶道文化の特色や精神性について学ぶ。	第10回	7/2 (金)	まとめ—喫茶文化のこれから— 寺本益英が担当。全ての講義の締めくくりを行う。またライフスタイル激変の中で、喫茶文化の将来について意見交換をする。

## C COURSE 平家物語の平清盛 — その生涯をたどる

毎回水曜日 ●時間/11:10~12:40 ●受講料/23,000円(同窓生20,000円)

平家物語の中から平清盛に関する場面をピックアップして作品を精読します。

担当講師：武久 堅  
関西学院大学名誉教授・元文学部教授



### ■スケジュール

第1回	6/2 (水)	「祇園精舎」(巻一)前半 精読 平家物語のテキスト(諸本)の概説をします。後半、序章を読み、内容を詳しく解説します。	第6回	7/7 (水)	「都遷」(巻五) 「月見」(巻五) 清盛の独断専制
第2回	6/9 (水)	「祇園精舎」(巻一)後半 平氏の系譜について	第7回	7/14 (水)	「物怪」(巻五) 「奈良炎上」(巻五) 清盛に敵対するものたち
第3回	6/16 (水)	「殿上の闇討」(巻一) 平氏台頭の契機について	第8回	7/21 (水)	「入道死去」(巻六) 清盛の遺言伝承
第4回	6/23 (水)	「鱧」(巻一) 「禿髪」(巻一) 清盛伝承の発生と清盛語りの生態について	第9回	7/28 (水)	「築嶋」(巻六) 「慈心房」(巻六) 清盛追悼説話の数々
第5回	6/30 (水)	「吾身栄花」(巻一) 「殿上乘合」(巻一) 清盛息女それぞれの人生と孫の行動	第10回	8/4 (水)	「祇園女御」(巻六) 清盛出生秘話

## D COURSE 現代社会における司法の役割 — 裁判員制度の行方、犯罪と刑罰

毎回金曜日 ●時間/11:10~12:40 ●受講料/23,000円(同窓生20,000円)

裁判員制度に重点を置きながら、現代社会における司法の役割や日本の司法の特色などについて論じる。また、体感治安の悪化が広く論じられる今日の社会での犯罪と刑罰を考える。

担当講師：前野育三  
関西学院大学名誉教授・弁護士・元法学部教授



### ■スケジュール

第1回	6/25 (金)	日本の法体系の歴史的・地理的位置づけ 世界の法系には、英米法と大陸法がある。日本は明治期近代化において大陸法(制定法主義)を継受。その後には戦後改革と近年のグローバル化。	第6回	7/30 (金)	裁判員裁判はすべての裁判に適合的か 裁判員裁判の対象事件は? なぜ、重い事件が対象なのか。重い事件でも裁判員裁判に適用しない事件もあるのではないだろうか。性犯罪は?
第2回	7/2 (金)	日本の裁判制度 裁判には民事裁判と刑事裁判がある。民訴は、両当事者の紛争を解決するのが主眼、刑訴は、処罰の前提として真実の発見が重要。後者は市民参加に適する。	第7回	8/6 (金)	判決後、被告人はどう扱われる? どのような判決をすれば、被告人はその後どのように扱われるのだろうか。刑罰の種類と、刑務所等での犯罪者処遇のありようを示す。
第3回	7/9 (金)	諸外国における裁判への市民参加 市民参加の形態として陪審制と参審制がある。陪審制は英米法の国々で、参審制は大陸法の国々で発達した。日本の裁判員制度は、参審制に似ている。	第8回	8/27 (金)	被害者との関係をどのように考えるか 犯罪の被害者は、刑事裁判でどのような立場に立つか。被害者が受けた損害は、どのように償われるべきか。加害者による賠償と国家による補償。
第4回	7/16 (金)	裁判員裁判は、どのように行われるか 裁判員の選定から公判廷での審理、その後の評議にいたる手続の流れを示す。従来型の裁判手続と何かどのように違うかを理解する。	第9回	9/3 (金)	刑罰と他の制裁(民事と行政) 自動車運転で人身事故を起こせば、刑罰のほかには運転免許の停止や取消、被害者に対する損害賠償義務を負う。これらの相互関係は?
第5回	7/23 (金)	なぜ裁判員制度が必要なのか 従来の刑事裁判の問題点を示し、裁判員裁判でどのように変化したかを論じる。調書に基づく事実認定から公判中心主義への変化が期待される。	第10回	9/10 (金)	日本法、今後の展望 社会的弱者の救済としての法の役割をどう考えるか。現在、法律家の活躍の分野は、どこを向かっているか。今後日本法はどう展開するか。

## E COURSE 新約聖書を読む — 「教師」イエス像の探究

毎回木曜日 ●時間/11:10~12:40 ●受講料/13,800円(同窓生12,000円)

ナザレのイエスはしばしば偉大な教師であったと言われる。イエスの「神の国」についての教説とともに、四福音書がそれぞれ個性的に描く「教師」イエス自身とその今日の意味について学ぶ。

担当講師：山内一郎  
関西学院大学名誉教授  
元神学部教授



### ■スケジュール

第1回	8/12 (木)	イエス研究のルネサンス 1980年代「イエス研究のルネサンス」以後、イエスと「教師」の関係性を再考する新しい地平が拓かれる。	第4回	9/9 (木)	マタイによる福音書 福音の「書」としての性格を現すマタイは律法の成就、解釈者としての教師を提示する。
第2回	8/26 (木)	「教師」イエスの原像 はじめに「弟子」たちとの関係を念頭において「教師」としてのイエスのリアルな原像をスケッチする。	第5回	9/16 (木)	ルカによる福音書 ルカは「物語」のスタイルを際立たせながら、隣人愛の「模範」としての教師を描き出す。
第3回	9/2 (木)	マルコによる福音書 マルコは「福音」をキーワードとして「権威ある新しい教え」の主体である教師を証言する。	第6回	9/30 (木)	ヨハネによる福音書 ヨハネは「真理」(ロゴス)の受肉としてのイエスが今や同時に教える「助け主」として働くことを説く。